



沖小だより



令和8年6月 第5号
門真市立沖小学校
校長 吉川 茂樹

学校教育目標 「考動」「協創」「継続」～自立した子どもの育成～

ハッピープロジェクト（多文化共生）

5年生が「総合的な学習の時間」で取り組んでいる「ハッピープロジェクト（多文化共生）」。

先日、門真市の宮本市長・吉田副市長・富田教育長・水野教育部長等が、この授業を参観にいらっしゃいました。沖小の子どもたちの活動が、市全体の注目を集めています。

子どもたちは料理・ダンス・野菜販売・韓国の遊び・製作・クイズなど、テーマ別のチームに分かれて探究を進めています。この日は、学校運営協議会メンバーの実島直美さんのコーディネートにより、2つのチームが海外の方々と交流しました。

【スポーツ・カードゲームチーム】 国際ビジネスデザイン専門学校の留学生10名が来校。グラウンドでサッカー、体育館でカードゲームを一緒に楽しみました。

【英語劇チーム】 オーストラリア在住だった方とオンラインでつながり、自分たちが書いた台本の翻訳やアドバイスをいただきました。

子どもたちの学びの相手は、教師でも教科書でもありません。地域の方、市の職員、留学生、海外在住の方——実社会で生きるリアルな人たちです。本物の相手と、本物の目的のために動く。そこで生まれる経験は、教室の中だけでは決して手に入りません。うまくいかないことも、予想外の展開も、すべてが本物の学びです。

沖小学校は今後も、地域・企業・行政との連携を大切にしながら、子どもたちが実社会・実生活とつながる学びの場をつくっていきます。

あいさつチャレンジ表彰

5月の生活目標は「あいさつをしよう」でした。今月は環境生活委員会が企画した「クラスチャレンジ」が行われ、各クラスが気持ちのよいあいさつに取り組みました。児童集会では、特によく取り組んでいたクラスの表彰が行われました。

🏆 表彰クラス 3年1組 ・ 4年1組 ・ 6年1組

壇上で賞状を受け取る子どもたちの表情は、どこか誇らしげでした。

あいさつは、人と人をつなぐ最初の一步です。「おはよう」のひと言が、相手の朝を明るくし、自分自身の気持ちも整えてくれます。今回のチャレンジで育まれた習慣が、学校生活のあちこちに根づいていくことを願っています。表彰されたクラスはもちろん、全校でこの取り組みに向き合えたことが、何より大切な経験です。子どもたちが自分たちで目標を立て、振り返り、認め合う。そんな文化が、沖小学校の日常にそっと広がっています。

